



みどりの風

平成25年2月1日発行
校報 第494号
〔みどりの風 第37号〕
練馬区立関町北小学校

ならぬことはならぬ

校長 大野 泰弘

先日の学校公開日には、平日にもかかわらず、多くの保護者、ご家族、地域の皆様方にご来校いただき、また、「校内書きぞめ展」もあわせてご観覧くださいまして、厚く御礼を申し上げます。

小学校生活で初めて書きぞめをした1年生、小学校生活のまとめとなる6年生だけでなく、どの学年の子どもたちも新年にあたり、心をこめて書き上げた「書きぞめ」になりました。「文字は心を表す」と言われますが、書きぞめだけでなく、ふだんのノートなどの文字も丁寧に書こうとする習慣が身に付いている子が多く、本校の子どもたちの心が表れていることと言えるでしょう。

さて、「忠烈 今も 香に残す 花も会津の 白虎隊」で有名な会津藩には、武士の子弟が10歳になると入校する「日新館」という藩校がありました。今年は、テレビでも会津藩出身の新島八重が取り上げられ話題になっていますが、「日新館」という名称は、四書の一つ「大学」の中の「湯の盤銘」と言われる故事に由来し、「日々新たに進歩、成長したい」という願いからその名がつけられたのだそうです。そして、「日新館」に入校する前の6歳から9歳までの子弟には、地域における教育の場として「什」というグループがあったそうです。そして、そこには、次のような「掟」があり、藩士としての教えが徹底されていました。

什の掟〔教え〕

- 一、年長者の言うことに背いてはなりません
- 二、年長者にはお辞儀をしなければなりません
- 三、虚言を言うことはなりません
- 四、卑怯な振る舞いをしてはなりません
- 五、弱いものをいじめてはなりません
- 六、戸外で物を食べてはなりません
- 七、戸外で婦人と言葉を交えてはなりません

ならぬことはならぬものです

会津藩における武士道が源流にあるとはいえ、七番目の掟を除けば、今日の社会生活においても当てはまるものばかりです。現代風に言い換えれば、「年長者を敬い、その話をしっかり受け止めなさい。年長者への礼儀をわきまなさい。人に嘘をついてはいけません。卑怯な行動をとってはいけません。弱い者をいじめてはいけません。戸外で歩きながら飲食してはいけません。」ということになるでしょうか。子どもに確かな規範意識を育て、豊かな心をもった一人の人間として育てるうえで「ならぬことはならぬ」と、毅然として教え諭すべき徳目の大切さを示しているものであり、それに古今東西の違いはありません。

時には、その背景や理由等を子どもが納得できるように分かりやすく説明する必要もあるでしょうが、例えば、「いじめ問題」や「暴力」は「ならぬこと」として理屈抜きで指導していかねばならないことでしょうし、「交通ルールを守ること」、「地域の中で周囲の人に迷惑をかけないこと」等の規範意識をもつことに対しても、注意すべきことを目にしたら、「ならぬこと」として諭していくことが求められます。そこには、子どもたちのモデルとなるべき私たち大人の言動が大切になってくることは言うまでもありません。

子どもを育てるといことは、家庭・学校・地域社会が一体となることで、その効果が高まります。今の地域社会には「什」というグループはありませんが、その精神を受け継ぎながら、本校に学ぶ子どもたちが健やかに育つよう、連携を深めていきたいと思っております。引き続き、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。